

公益財団法人みらいファンド沖縄

「誰もがつながりと出番をみつけられ、リンクワーカーがともに育つ居場所事業」  
期待する活動について

公益財団法人みらいファンド沖縄（以下、私たち）は、この度、10年以上取引のない口座に眠る「休眠預金」を民間公益活動団体へ分配する「資金分配団体」に選定され、「誰もがつながりと出番をみつけられ、リンクワーカーがともに育つ居場所事業」を実施します。

時代とともに、これまで地域社会の運営を担ってきた自治会の加入率が下がってきたことなどを背景に、沖縄でも社会的孤立が広がっています。それにより行政の支援などが不可欠な個人や世帯が増加し、対象が明確な制度や居場所も増えています。私たちは、これらの状況がさらなる孤立を助長しているのではないかという危機感のもと、地域やテーマ型コミュニティの中に、特定のハイリスク層に限定しない、“あいまいな利用者”に開かれ、利用者が自分で利用の仕方を決めたり選んだりでき、社会的孤立を予防できる居場所を作り、地域社会に定着させるという狙いのプログラムを提案します。

今回の事業では、支援が必要な状態になる前に社会的孤立が防止できるつながり作りができ、ここで重要と思われる人材「リンクワーカー」が定着する居場所事業に取り組む実行団体を募集します。沖縄県全域での募集となります。

このシート「期待する活動について」では、私たちが求める対象事業のコンセプト（価値観や視点目指す姿）を示したうえで、事業提案書計画書で表現してほしい項目への「問い」をお伝えします。

私たちの意図を汲み取り、ご記入ください。本文をよくお読みいただき、公募説明会や個別相談でさらに理解を深め、応募書類の作成をお願いします。

## コンセプト① 社会的処方による社会的孤立の防止

本事業は、地域で孤立している人、孤立のリスクを抱えている人に対して「居場所」を通して、社会とのつながりを作り直していくことで、危機的状況に陥ることを未然に防ぐ事業を目指します。この考え方は近年、社会的処方と呼ばれており、薬や医療行為等ではなく「つながりを処方」することで個人の抱えている生きづらさを緩和するコンセプトとして注目されています。

## コンセプト② 「居場所」は、人が関わり続けられる“場”であり、 ここを通してつながり直す

本事業における居場所とは、単に人が集まる場所やイベントのことではありません。ふらっと立ち寄れること、顔なじみが生まれること、話してもよいし話さなくてもよいこと、何かあったときに思い出してもらえることなど、人の関係が少しずつ積み重なっていく場だと考えています。よって以下のような成果が見えることを大切にします。

- ・つながりが増えた（例：相談先／活動先／地域資源への接続）
- ・出番が生まれた（例：運営の一部を担う人が増えた）

本事業は制度による地域の分断を防ぐ場としての視点も重視しています。制度や支援の対象からこぼれ落ちやすい人たちが、安心して過ごせる「間（あいだ）の場」であり、相談窓口に行くほどではないがひとりではしんどい人、どこに相談すればよいかわからない人が、人や情報、次の一歩につながっていくための中継点となることを期待します。以下のような成果を期待します。

- ・制度や支援の「切れ目」をつなぐ場になること、相談・支援が縦割りで途切れないこと
- ・制度で分断されがちな当事者同士が出会える
- ・居場所が“次の支援・次の活動”へのハブになり、地域における孤立の予防的アプローチになること。

## コンセプト③ 「リンクワーカー」の定着

本事業では「リンクワーカー」と呼ばれる、「居場所」において、利用者が安心できる雰囲気を作り、利用者の声を聞き、彼らに対して様々な資源へつなぎ手にもなるようなスペシャリストが必要だと考えています。リンクワーカーは、それぞれの「居場所」によって様々なスキルと状況の変化への対応も求められます。どうすれば彼らが「居場所」に定着し、成長していくのかを共有したいと考えています。

#### コンセプト④ 既存の活動を土台に、現場から広げる助成

本事業は、既存の活動や財源を大切にし、活動が作り出してきた地域やコミュニティへの良い影響を見える化しながら広げる助成です。

活動を一から立ち上げること及び既存の活動の振り返りや更新、何らかの変化を必要とせず今のままの活動継続を目的とするものではなく、すでに行っている活動を少し広げる企画、これまで人手や工夫が足りずできなかった部分に取り組みむなど、現場の実情に寄り添うことをベースとした助成であることを重視しています。また、助成によって担い手の負担や忙しさが過度に増えないか、活動の質や職員・ボランティアのモチベーションが保たれるかといった「持続可能な実施体制」の視点も同様に重視しています。

## 事業計画に必ず書く要素

### 1) アクセスしやすい「居場所」とは何か

本事業は、社会的孤立の防止またはすでにある孤立の解消のために、当事者・住民・支援者・外部資源が“ゆるく接続”される状態を目指しています。そこでは、居場所の利用者が「（支援やサービスの）受け手」だけで終わらず、役割・貢献・小さな担当が見つかるような仕掛けが必要です。キーワードは“参加しやすさ・敷居の低さ・排除しない設計”だと考えています。みなさんの考える事業計画で「居場所」へのアクセスについて、次の3点を必ずお書きください。

- ①居場所の対象
- ②対象の方々へのアプローチ（呼びかけ）方法
- ③利用者が気軽にアクセスできるための工夫

### 2) リンクワーカーは「特別な人」ではなく、場の中で育つ存在である

本事業では「リンクワーカーがともに育つ」居場所設計を重視します。リンクワーカーとは、制度上の専門職や有資格者のみを指すものではなく、人と人を紹介すること、困りごとに気づいて声をかけること、必要な先につなぐこと、ひとりで抱え込まないよう寄り添うことなど、日常的な関わりの中で果たされる役割を担う人だと考えています。本事業では、こうした役割を地域や活動の中にいる人が少しずつ担えるようになることも目指しています。事業計画では次の①②を必ず提示し、任意で③の追記をお願いします。

- ①みなさんの考えるリンクワーカーの配置計画
- ②その育ち方（育て方）
- ③私たちが考えるリンクワーカー像に求める追加のアイデア・意見

### 3) 居場所の形は自由であるが、「続く工夫」があること・ステークホルダーとの連携の議論は必須

本事業における居場所は、常設の拠点であって欲しいと考えています。ここで言う常設とは、頻度は事業計画に合わせたもので構いませんが日時が定まっている（例：毎週火曜13時、第2・4土曜9時など）場、公園や空きスペースを活用した取り組みも対象となります。

本事業は、ひとつの団体のみで完結することを前提としていません。社会福祉協議会、自治会、学校、教育委員会、医療・福祉関係者、企業、他の市民活動団体などが、互いに無理のない形で関わり合うことを理想としています。助成終了後も続けられる適切な体制のイメージ、協力・連携するステークホルダーとの取り組みに加え、居場所継続のための地域やテーマ型コミュニティとの議論や合意形成等のアイデアも求めます。これについて、

- ・どんな主体と（社協・学校・自治会・医療・企業 等）
- ・何を束ね（資金・人材・場所・情報）
- ・参加者がどう次へつながるか（紹介・同行・共同実施）

という視点で、次の3点を明記してください。

- ①みなさんが居場所を継続するために、すでに現在、ステークホルダーと取り組んでいること
- ②当事業で新しくつながりたいステークホルダーは誰か？彼らと取り組みたい事業
- ③居場所継続のために必要な資源調達に関してのアイデア

以上